

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's 広場

関連リンク

資料室



HOME | 資料室 | 一般教養 | 自己啓発 | 福澤諭吉伝 (3)

労働組合

労働者福祉・共済

一般教養

社会保障

労使トラブル法律相談Q&A

労働関係法

経営全般

人間関係とコミュニケーション

ライフプラン

男女共同参画

公務員関係法

日朝の歴史

7つの習慣

中東の歴史

ボランティア活動

環境活動

社会貢献活動

自己啓発

生涯学習

外交・防衛問題

資本論

教育カリキュラム

日本国憲法

福澤諭吉伝 (3)

1855年、20歳になった諭吉は、緒方洪庵の適塾をおとすれました。

明治維新の13年前のことです。

この頃、各地から適塾に学びに来ていた若者のなかには、その後、幕末から明治にかけて日本を動かした人物がたくさんいました。

そのなかの一人に越前福井藩からきていた医者の子橋下左内がいました。

諭吉はこの左内の人柄に打たれて大変尊敬をしました。

のちに佐内は、福井に帰って松平春嶽という殿様に仕え、藩の政治改革をすすめ、さらには日本の近代化を図るなどの働きをします。

しかしそれが、幕府の大老井伊直弼に咎められ、吉田松陰らとともに死刑にされてしまいます。

この時諭吉は、幕府の政治を批判することを許さないという封建制度に、心からの憤りを覚えました。

諭吉が適塾に入ってから2年後のことです。

兄の三之助が急死し、藩から家を継ぐようにとの命令が下されます。

諭吉は家に帰りますが、三之助の医療費がかさんで大変な額の借金が残されていました。

そのうえ藩の仕事といえば、身分の低い福沢家代々の仕事で、蘭学を勉強したことなど少しも生かせません。

諭吉は母に相談して、再び大阪の適塾に行く決心を固めます。

親戚中の猛反対を押し切って、家財や大量にあった貴重な蔵書売り払って借金を返済し、母の援助を受けながら諭吉は適塾へ戻りました。

蘭学に詳しく、人柄も明るく親切的な諭吉は、やがて、仲間を押されて塾長になりました。

塾長というと生真面目で勉強ができるだけの人物が多いのですが、この塾長は酒が好き、議論好き、宴会好き、ということで大変な人気者でした。

夏はまっばだかで物干しの上で大酒を飲み、あるときは洪庵の奥さんの前へも裸で出るという大失敗をしたりもします。

こうして生き生きと適塾で学び、かなりの知識を得ていった諭吉の名が高まると、中津藩も諭吉をほっておけなくなり、蘭学の教師として江戸へ呼ぶことになりました。

「よし、これからは若い優秀な学生を育てていこう」と諭吉の胸は大きくふくらみます。

(つづく)

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

>>一覧へ戻る

傾聴

語り部スキル

🔍 キーワード検索はこちら

📄 サイトマップ 🔍 このサイトについて 🛡️ 個人情報保護の取組みについて

🏠 ページTOPへ

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's広場

関連リンク

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.